

もくじ

もくじ	1
はじめに	4

1 章 本体の機能

9

1 ディスプレイ	10
① ディスプレイの設定	10
② デスクトップ表示を変える	12
2 ハードディスクドライブ	14
3 サウンド機能	15
① スピーカの音量を調整する	15
② 音楽／音声の録音レベルを調整する	16
③ サウンドのパワーマネジメントを設定する	17
④ マイクの設定を行う	18
4 ドライブ	19
① 使用できるメディアと対応するアプリケーション	20
② 使用できる CD	23
③ 使用できる DVD	25
④ DVD-RAM を使うときは	28
5 SD メモリカード	32
① SD メモリカードについて	32
② SD メモリカードのセットと取り出し	33
6 ワンタッチボタン	35

2 章 通信機能

37

1 LAN へ接続する	38
① ケーブルを使った LAN 接続（有線 LAN）	38
② ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）	41
③ ネットワーク設定に便利な機能	54
2 Bluetooth 機能を使う	56
① Bluetooth とは	56
② Bluetooth 機能を使って通信する	58
3 内蔵モデムについて	60
① 海外でインターネットに接続する	60

3章 周辺機器の接続

61

1 周辺機器について	62
① 周辺機器を使う前に	63
2 PCカードを接続する	64
① PCカードを使う前に	64
② PCカードを使う	65
3 USB対応機器を接続する	67
4 テレビを接続する	69
5 外部ディスプレイを接続する	74
6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	76
7 その他の機器を接続する	78
① マイクロホン	78
② ヘッドホン	79
8 メモリを増設する	80

4章 バッテリ駆動

85

1 バッテリについて	86
① バッテリ充電量を確認する	87
② バッテリを充電する	90
③ バッテリパックを交換する	93
2 省電力の設定をする	95
① 東芝省電力	95
3 パソコンの使用を中断する／電源を切る	96
① スタンバイ	97
② 休止状態	98
③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	99

5章 アプリケーションについて 101

- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 102
- 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 103

6章 システム環境の変更 105

- 1 システム環境の変更とは 106
- 2 BIOS セットアップを使う 107
 - ① BIOS セットアップの操作 107
 - ② BIOS セットアップの画面 109
 - ③ 設定項目 110

付録 125








- 1 本製品の仕様 126
- 2 技術基準適合について 129
- 3 無線 LAN について 141
- 4 Bluetooth について 150
- さくいん 156

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っているると便利な内容を示します。
 役立つ操作集	知っているると役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「 」 他のマニュアルへの参照の場合…『 』 サイバーサポート、できる dynabook への参照の場合…《 》 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

*1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

*3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム (OS) を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。


MS-IME Microsoft® IME 2003 / ナチュラル インput 2003 を示します。

Pentium モデル インテル® Pentium® M プロセッサ搭載モデルを示します。

Celeron モデル インテル® Celeron® M プロセッサ搭載モデルを示します。

サイバーサポート CyberSupport for TOSHIBA を示します。

ドライブ DVD マルチドライブ / DVD-ROM&CD-R/RW ドライブを示します。内蔵されているドライブはモデルによって異なります。

 参照 詳細について「1 章 4 ドライブ」

DVD マルチドライブモデル

DVD マルチドライブが内蔵されているモデルを示します。

DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデル

DVD-ROM&CD-R/RW ドライブが内蔵されているモデルを示します。

記載について

- ・ 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「***モデルのみ」と注記します。
- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の CD / DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Intel、インテル、Pentium、Celeron、Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport、BeatJam は、株式会社ジャストシステムの商標です。
- ・ CyberSupport、BeatJam は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport、BeatJam にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ i.LINK は商標です。
- ・ Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
- ・ Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- ・ LaLaVoice、ConfigFree は株式会社東芝の登録商標です。
- ・ Adobe、Adobe Reader は Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
- ・ InterVideo、WinDVD、WinDVD Creator は InterVideo, Inc. の登録商標または商標です。
- ・ Symantec、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。
Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
- ・ McAfee、マカフィーは米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の登録商標です。
- ・ Sonic RecordNow! は Sonic Solutions の登録商標です。
- ・ 「できる」 は、株式会社インプレスの登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジーについて

Pentium モデルは、インテル Centrino モバイル・テクノロジー搭載です。
次の3つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジー搭載と呼びます。

- ・ インテル Pentium M プロセッサ
- ・ インテル 855 チップセット ファミリ
- ・ インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使用されているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ AC アダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5 ~ 30℃ (高所の場合 25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイアル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製 (データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・Windows のシステムツールまたは『困ったときは』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。
- ・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

参照 ▶ 詳細について『さあ始めよう 5 章 3 お客様登録をする』

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作など役に立つ機能も紹介しています。

1	ディスプレイ	10
2	ハードディスクドライブ	14
3	サウンド機能	15
4	ドライブ	19
5	SDメモ리카ード	32
6	ワンタッチボタン	35

1 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1024 × 768 ドット）が内蔵されています。ドットは画素数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

▶ 参照 外部ディスプレイの接続について
「3 章 5 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

2048 × 1536 ドット	1,677 万色
1920 × 1440 ドット	
1600 × 1200 ドット	
1400 × 1050 ドット	
1280 × 1024 ドット	
1024 × 768 ドット	
800 × 600 ドット	

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

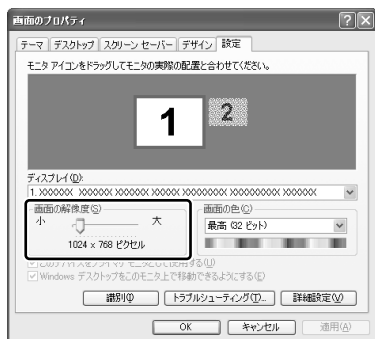
メモ

- 1,677万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1画素（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数画素の組み合わせによって表現する方法です。
- 本体液晶ディスプレイへの表示の場合、1,677万色はディザリング表示です。本体液晶ディスプレイの解像度よりも小さい解像度で表示する場合、初期設定では表示領域部が画面いっぱい大きく表示されます。本体液晶ディスプレイの解像度よりも大きい解像度で表示する場合は仮想スクリーン表示となります。

2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。外部ディスプレイを接続した場合など、購入時の設定では見にくい場合は、次の手順で変更できます。



- 1 **【コントロールパネル】**を開き、**【デスクトップの表示とテーマ】**をクリック→**【画面】**をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 **【設定】** タブの **【画面の解像度】** で、解像度を変更する

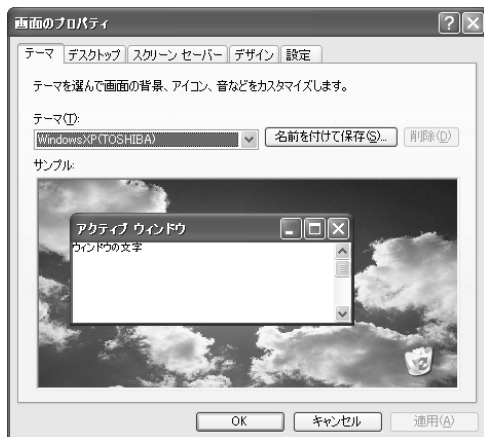


- 3 **【OK】** ボタンをクリックする

2) デスクトップ表示を変える

デスクトップのデザインやスクリーンセーバなどを、[コントロールパネル] の [デスクトップの表示とテーマ] 画面で変更できます。


- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリック→ [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。



(表示例)

1 デスクトップのテーマを変える

テーマを選んで画面の背景、アイコン、音などを変更できます。

- 1 [テーマ] タブの [テーマ] で  ボタンをクリックし、目的のテーマを選択する
- 2 [OK] ボタンをクリックする

メモ

本製品ではオリジナルのテーマを用意しています。

お好みに応じて、ご使用ください。

- WindowsXP(TOSHIBA) : 購入時の状態で設定されているテーマです。
- dynabook CX(BLUE) : ブルー系の壁紙とオリジナルのアイコンに変更します。
- dynabook CX(ORANGE) : オレンジ系の壁紙とオリジナルのアイコンに変更します。

2 時間帯で壁紙を変える

「くるくる壁紙チェンジャー」を使用するには、あらかじめデスクトップの壁紙を [dynabookFun 壁紙] に設定する必要があります。[dynabookFun 壁紙] や「くるくる壁紙チェンジャー」の設定方法については、《サイバーサポート（検索）：壁紙の設定をしたい》をご覧ください。

起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [くるくる壁紙チェンジャー] をクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 「くるくる壁紙チェンジャー」を起動後、[ヘルプ] ボタンをクリックする

お願い 液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で軽く拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。拭き取る際は、力を入れないで軽く行ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

2 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。

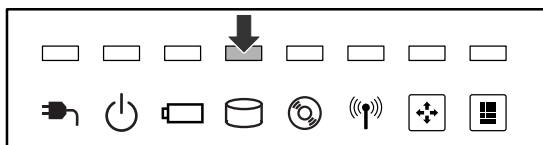
PC カードタイプ（TYPE II）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- Disk LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD / DVD などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD / DVD などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LED が点灯します。



PC カードタイプや USB 接続などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

3 サウンド機能

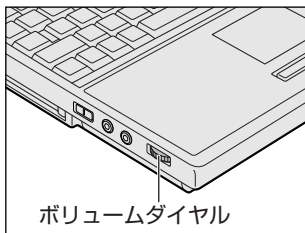
本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1) スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、および Windows のボリュームコントロールで調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。



2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



詳しくは『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

【音楽／音声を再生するとき】

ボリュームコントロールの各項目では次の音量が調整できます。

ボリュームコントロール	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽CD (BeatJam、Windows Media Playerの場合)、DVD-Video など
CD プレーヤー	音楽CD (BeatJam、Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] で表示項目を確認する
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[マイク]：外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
同時に2つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声がボリュームコントロールの [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

3) サウンドのパワーマネージメントを設定する

本製品では、サウンドコントローラのパワーマネージメント機能を設定できるようになっています。

この機能が有効になっていると、サウンド機能が使われていないときにサウンドコントローラの電源を切ることができ、消費する電力を少し節約することができます。購入時は、本機能が有効に設定されています。

消費電力の節約の程度は、バッテリーの状態によって異なります。

1 サウンドコントローラの起動方法

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [サウンド、音声、およびオーディオデバイス] をクリックする
- 3 [SoundMAX] をクリックする

2 パワーマネージメントの設定方法

- 1 [SoundMAX コントロールパネル] 画面で [電源管理] タブの [パワーモード] でモードを選択する



【パワーモード】

- **パワーセービング解除**
パワーセービングを解除します。
- **ノーマル・パワーセービング**
一定時間、サウンドコントローラが使われていないと、自動的にパワーセービングを行います。
- **ハイ・パワーセービング**
[タイマー設定] で、パワーセービングを行う時間を設定することができます。

2 [OK] ボタンをクリックする

4) マイクの設定を行う

本製品では、マイクから録音するときの設定を行うことができます。
[SoundMAX コントロールパネル] 画面の [マイク] タブで設定します。

参照 → [SoundMAX コントロールパネル] 画面の起動
「本節 3-1 サウンドコントローラの起動方法」



【マイクの設定】

使用しているマイクに適した入力状態を設定します。

- 標準マイク : 本製品の内蔵マイクまたは通常のデスクトップ型マイクを使用している場合
- ヘッドセット : マイクが口の正面に位置する装着型マイクを使用している場合

4 ドライブ

本製品には、DVD マルチドライブまたは DVD-ROM&CD-R/RW ドライブのいずれか 1 台が内蔵されています。内蔵されているドライブは、購入したモデルによって異なります。

- DVD マルチドライブ

ドライブには次のマークが入っています。



* マークの位置や並び順は異なる場合があります。

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。

- DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ

ドライブには次のマークが入っています。



* マークの位置や並び順は異なる場合があります。

CD-R/RW ドライブと DVD-ROM ドライブ両方の機能を持ちます。

ドライブは、各種ディスクの種類や特性にあった速度を選択して読み出し／書き込みを行います。ディスクによっては最大速度での読み出し／書き込みができない場合もあります。

『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD を使用するとき守ってほしいことが記述されています。

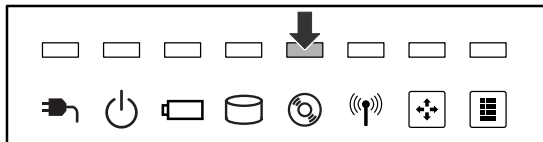
CD / DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD 再生」プロファイルに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video の再生は Region コード「2」、^{リージョン}「ALL」のものを^{リージョン}ご使用ください。

ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っているとき、ドライブが動作しているときは、CD-ROM LEDが点灯します。



1) 使用できるメディアと対応するアプリケーション

お願い

書き込み中は、シャットダウン、ログオフ、スタンバイなどを実行しないでください。

書き込みに使用できる、本製品に添付のアプリケーションは次のとおりです。

レコードナウ ● RecordNow!

参照 『図解で読むマニュアル
オリジナル音楽 CD を作る、データ CD / DVD を作る』
『困ったときは 2 章 3 CD / DVD にデータのバックアップをとる』

ディーエルエー ● DLA

参照 『図解で読むマニュアル データを CD / DVD にコピーする』
《サイバーサポート（検索）：データを CD/DVD にコピーしたい》

ウィンディーバイディークリエーター プラチナム ● WinDVD Creator 2 Platinum

参照 『図解で読むマニュアル 映像を編集して DVD に残す、
テレビ番組を DVD に直接録画する』
「InterVideo WinDVD Creator 2 Platinum」のヘルプ

メディアにデータを書き込むとき、メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

1 DVDマルチドライブモデル

使用できるメディア

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
読み出し	○	○	○*1	○*2	○*1	○	○*1
書き込み回数	1回	繰り返し書換可能*3	1回	×	繰り返し書換可能*3	×	繰り返し書換可能*3

* 1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

* 2 DVD+R DL (2層ディスク) は読み出しできません。

* 3 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

アプリケーションと書き込み可能なメディア

【 RecordNow! 】

○：使用できる ×：使用できない

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
○	○	○*1	×	○*1	×	×

* 1 DVD-Video、DVD-Audioの作成はできません。また、DVD プレーヤなどで使用することはできません。

【 DLA 】

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
×	○*1	×	×	○*1	×	×

* 1 CD-RW、DVD-RWを「DLA」で使用するには、あらかじめフォーマットが必要です。

【 WinDVD Creator 2 Platinum 】

「WinDVD Creator 2 Platinum」では、「プロジェクトモード」と「ディスクマネージャ」の2つのモードでDVDに書き込むことができます。各モードで使用できるフォーマット（映像を書き込むときの記録形式）が異なります。

プロジェクトモード	DVD-Video フォーマット
ディスクマネージャ	DVD-Video フォーマット、-VR フォーマット

+VR フォーマット (DVD+RW) で書き込むことはできません。

モードとフォーマットによって、書き込みできるメディアの種類が異なります。

プロジェクトモード

	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
DVD-Video フォーマット	○	×	○	×	○* ¹

* 1 DVD-Video フォーマットで記録されたDVD-RAMは、本製品にインストールされている「InterVideo WinDVD」でのみ再生可能となります。

ディスクマネージャ

	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
DVD-Video フォーマット	×	×	○* ¹	×	×
-VR フォーマット	×	×	×	×	○

* 1 再生するためには、ファイナライズを行ってください。
ディスクマネージャで作成したメディアのみ、追記、再編集が可能です。

【【マイコンピュータ】上で書き込む場合】

[マイコンピュータ] で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーすると、パソコンで作成した文書データなどのファイルをメディアに書き込むことができます。^{*1} 書き込み可能なメディアは、CD-RW、DVD-RW、DVD-RAMです。

なお、これらのメディアはあらかじめフォーマットをしておく必要があります。

* 1 CD-RW、DVD-RW への書き込みは、「DLA」を使用してください。

参照 → CD-RW、DVD-RW のフォーマット

《サイバーサポート（検索）：データをCD/DVDにコピーしたい》

参照 → DVD-RAM のフォーマット「本節 ④ DVD-RAM を使うときは」

2 DVD-ROM&CD-R/RWドライブモデル

使用できるメディア

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
読み出し	○	○	○* ¹	○* ¹	×	×	○* ¹
書き込み回数	1回	繰り返し書換可能* ²	×	×	×	×	×

* 1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

* 2 実際に書き換える回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

アプリケーションと書き込み可能なメディア

CD-R には本製品に付属の「RecordNow!」で書き込みができます。

CD-RW には、「RecordNow!」および「DLA」*1 で書き込みができます。

* 1 CD-RW を「DLA」で使用するには、あらかじめフォーマットが必要です。

【【マイコンピユータ】上で書き込む場合】

【マイコンピユータ】で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーすると、パソコンで作成した文書データなどのファイルを CD-RW に書き込むことができます。*1
なお、新品の CD-RW は、使用前にフォーマットが必要です。

* 1 「DLA」を使用してください。



CD-RW のフォーマット

《サイバサポ (検索) : データを CD/DVD にコピーしたい》

2 使用できる CD

【読み出しできる CD】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- 音楽用 CD
8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。
- フォト CD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのもので使用できます。
- CD エクストラ
記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

【書き込みできる CD】

- CD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- CD-RW

書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。

● DVD マルチドライブモデル

CD-R メディア : 最大 16 倍速

最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応した CD-R メディアを使用してください。

マルチスピード CD-RW メディア : 最大 4 倍速

High-Speed CD-RW メディア : 最大 8 倍速

Ultra Speed CD-RW メディア、Ultra Speed+CD-RW メディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

● DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデル

CD-R メディア : 最大 24 倍速

最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応した CD-R メディアを使用してください。

マルチスピード CD-RW メディア : 最大 4 倍速

High-Speed CD-RW メディア : 最大 10 倍速

Ultra Speed CD-RW メディア : 最大 16 倍速

Ultra Speed+CD-RW メディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。

CD-RW (マルチスピード、High-Speed)

: 三菱化学メディア (株)、(株) リコー

CD-RW (Ultra Speed) * DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデルのみ

: 三菱化学メディア (株)

CD-R : 太陽誘電 (株)、三菱化学メディア (株)、(株) リコー、

日立マクセル (株)

これらのメーカー以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- 書き込み中は、電源を切る、スタンバイの実行、ログオフなどの操作を行わないでください。
- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まず CD-RW メディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。

「DLA」で CD-RW メディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができません。

- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でチェックを行うことをおすすめします。

▶ 参照 エラーチェックの方法

『困ったときは 3 章 その他 - Q. セーフモードで起動した』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

3 使用できる DVD

【読み出しできる DVD】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- DVD-ROM ● DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- DVD-R ● DVD-RW ● DVD-RAM

【書き込みできる DVD】

DVD マルチドライブモデルでは DVD に書き込むことができます。

お願い

本製品のドライブでは、書き込み 8 倍速までの DVD-R メディアと、書き換え 2 倍速までの DVD-RW メディア、書き換え 3 倍速までの DVD-RAM メディアを使用することができます。これらより速い書き込み倍速に対応したメディアを使用することはできません。

- DVD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。DVD-R は、DVD-R for General Ver2.0 規格に準拠したメディアを使用してください。

- DVD-RW
DVD-RW は、DVD-RW Ver1.1 規格に準拠したメディアを使用してください。
4 倍速以上に対応したメディアは使用できません。
- DVD-RAM
DVD-RAM は、DVD-RAM Ver2.0 または 2.1 規格に準拠したメディアを使用してください。

【 DVD-RAM の種類 】

DVD-RAM にはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できる DVD-RAM は次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、1 度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAM の種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）*2	○

* 1 一部の家庭用 DVD ビデオレコーダでは再生できない場合があります。

* 2 2.6GB、5.2GB のディスクは DVD マルチドライブモデルでは書き込みできません。
また、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブモデルでは使用できません。

お願い DVD マルチドライブモデルの場合

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R に書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。
DVD-RAM：松下電器産業（株）、日立マクセル（株）
DVD-RW：日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
DVD-R：松下電器産業（株）、太陽誘電（株）
これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- 書き込み中は、電源を切る、スタンバイの実行、ログオフなどの操作を行わないでください。
- DVD-R に書き込んだデータの消去はできません。

- DVD-RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まず DVD-RW メディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。「DLA」で DVD-RW メディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- DVD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときは、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R への書き込みでは、ファイルの管理領域などにも必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-R への書き込みでは、DVD の規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約 1GB に満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小 1GB のデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でチェックを行うことをおすすめします。

参照 → エラーチェックの方法

『困ったときは 3 章 その他 - Q. セーフモードで起動した』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R にデータなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAM をドライブにセットしたとき、システムが DVD-RAM を認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 市販の DVD-R には業務用メディア (for Authoring) と一般用メディア (for General) があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みできません。
一般用メディア (for General) を使用してください。
- 市販の DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R には「for Data」と「for Video」の 2 種類があります。映像を保存する場合や家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。

4 DVD-RAM を使うときは

* DVD マルチドライブモデルのみ


ここでは、DVD マルチドライブモデルで DVD-RAM に書き込みをする前に必要な操作について説明します。

1 フォーマットとは

新品の DVD-RAM は、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、DVD-RAM にデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAM を使えるようにすることです。

フォーマットされていない DVD-RAM は、フォーマットしてから使用してください。ここでは、ファイルシステムとフォーマット方法について簡単に説明します。詳細は PDF マニュアルを確認してください。

 「本項 2- PDF マニュアルを見る方法」

お願い

フォーマットを行うと、その DVD-RAM に保存されていた情報はすべて消去されます。1 度使用した DVD-RAM をフォーマットする場合は注意してください。

ファイルシステム

DVD-RAM をフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

選択できるファイルシステムは「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」です。

【UDF2.0】

-VR フォーマットに対応したファイルシステムです。

家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性があります。

【UDF1.5】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出しできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP / 2000 *¹ がインストールされたパソコン *² でもデータを読み出すことができます。

家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

- * 1 Windows 2000 Microsoft® Windows® 2000 Professional operating System 日本語版
- * 2 DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。

【 FAT32 】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出し／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP / Me *1 / 98 *2 がインストールされたパソコン*3 でもデータを読み出すことができます。家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

- * 1 Windows Me ... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating System 日本語版
- * 2 Windows 98 ... Microsoft® Windows® 98 SECOND Edition operating System 日本語版
- * 3 DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。

2 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

1 フォーマットする DVD-RAM をセットする

参照 → DVD-RAM のセット『さあ始めよう 2 章 4 CD / DVD』

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

3 [DVD-RAM ドライブ (D:)] をクリックする

[DVD-RAM ドライブ (D:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [フォーマット] をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



[DVDForm - D ドライブ] 画面が表示されます。

5 【ドライブ】 と 【フォーマット種別】 を選択する

映像を書き込み、家庭用 DVD ビデオレコーダで再生するための DVD-RAM を作成する場合は、[ユニバーサルディスクフォーマット (UDF2.0)] を選択してください。

パソコンで使用するための DVD-RAM を作成する場合は、[ユニバーサルディスクフォーマット (UDF1.5)] を選択してください。

6 ボリュームラベル名を入力する

UDF 形式を選択した場合は、必ず入力してください。

7 【開始】 ボタンをクリックする

物理フォーマットを行う場合は、[物理フォーマットを実行する] をチェックしてから、[開始] ボタンをクリックしてください。

物理フォーマットを行うと、DVD-RAM 上の全セクタを検査し、不良セクタの代替処理を行います (通常は行う必要はありません)。物理フォーマットを行う場合は、フォーマットに時間がかかります。

メッセージが表示されます。

8 メッセージの内容を確認し、【はい】 ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

9 メッセージの内容を確認し、【OK】 ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他の DVD-RAM も続けてフォーマットする場合は、DVD-RAM を入れ替えて、手順 5 から実行します。

フォーマットを終了する場合は、[DVDForm - D ドライブ] 画面で [閉じる] ボタンをクリックしてください。

PDF マニュアルを見る方法

1 【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【DVD-RAM】 → 【DVD-RAM ドライバー】 → 【DVD-RAM ディスクの使い方】 をクリックする

「Adobe Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

お願い CD / DVD の取り扱いと手入れ

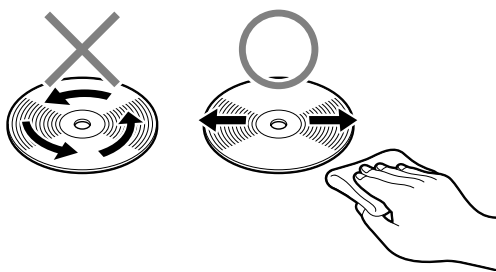
CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。

ボールペンなど、先の硬いものを使用しないでください。

- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

拭き取りは円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにし、乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



5 SD メモリカード

SD メモリカードを SD カードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1 SD メモリカードについて

SD メモリカードについて説明します。

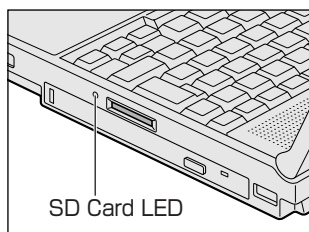
本製品の SD カードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。
- SDIO カードを使用する場合、必ず本製品で動作が確認されている製品を使用してください。その他の SDIO カードを使用すると、システムの動作が不安定になることがあります。

1 SD カードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LED が点灯します。



新品のSDメモリカードは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。フォーマット方法については、《サイバーサポート（検索）：SDメモリカードをフォーマットする》をご覧ください。

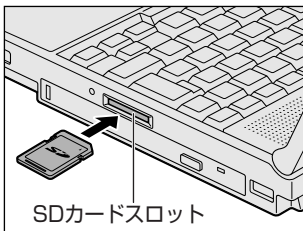
2) SDメモリカードのセットと取り出し

お願い

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SDメモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやSDメモリカードが壊れるおそれがあります。
- SDメモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SDメモリカードが壊れたりするおそれがあります。

1 セット



1 SDメモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SDカードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

2 取り出し

1 SDメモ리카ードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす SDメモ리카ード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 SDメモ리카ードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモ리카ードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする

[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

2 [XXXX (セットしている SDメモ리카ード) (E:)] (標準値) をダブルクリックする

セットした SDメモ리카ードの内容が表示されます。

6 ワンタッチボタン

本製品には、簡単にインターネットブラウザソフトやメールソフトなどを起動することができる、3つのワンタッチボタンがあります。

各ボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。

起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン Internet Explorer
- メールボタン Microsoft Office Outlook
- サイバーサポートボタン サイバーサポート

【パソコン本体の電源が入っていないとき】




電源が入り、Windows 起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

【スタンバイ状態／休止状態のとき】

スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

1 ボタンに割り当てるアプリケーションを変更する

各ボタンを押したときに起動するアプリケーションや、動作を設定することができます。

- 1 【コントロールパネル】を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝コントロール] をクリックする
[東芝コントロールのプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 変更するボタン名の下 [] ボタンをクリックする



ボタンに設定できる動作の一覧が表示されます。

4 [アプリケーションの指定] を選択する

[指定] 画面が表示されます。

このとき、他の項目を選択した場合は手順8に進んでください。

5 [参照] ボタンをクリックする



[ファイルを開く] 画面が表示されます。

6 ボタンに設定したいアプリケーション名をクリックし、[開く] ボタンをクリックする

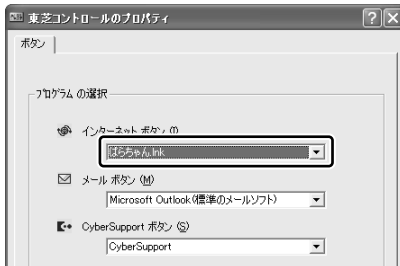
[指定] 画面に戻ります。

[アプリケーション名] に、選択したアプリケーション名が表示されていることを確認してください。

7 [OK] ボタンをクリックする

[東芝コントロールのプロパティ] 画面に戻ります。

割り当てたいボタンの欄に、選択したアプリケーション名が表示されていることを確認してください。



8 [OK] ボタンをクリックする

2章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 38
 - 2 Bluetooth 機能を使う 56
 - 3 内蔵モデムについて 60

1 LANへ接続する

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。

本製品には、ウイルスチェックソフトとして「ノートン Norton Internet Security^{インターネット セキュリティ}」、マカフィー「マカフィー・ウイルススキャン／マカフィー・パーソナルファイアウォール」が用意されています。『さあ始めよう 3章』をお読みになり、必ずウイルスチェックソフトのインストールと設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

▶ **参照** コンピュータウイルスについて
『さあ始めよう 3章 ウイルスや不正アクセスを防ぐ』

1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

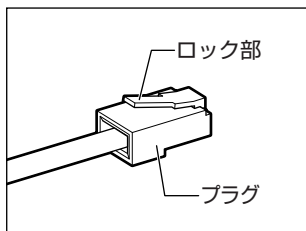
本製品には、ブロードバンド対応のLAN^{ラン}機能が内蔵されています。LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。また、本製品のLAN機能は、ファスト Fast Ethernet（100BASE-TX）、イーサネット Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet／Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

お願い LANケーブルの使用にあたって

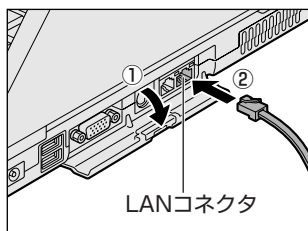
- LANケーブルは市販のものを使用してください。モジュラーケーブルは、アナログ電話回線専用です。LANコネクタには接続できません。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）で使用するときは、必ずカテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。10BASE-T規格（10Mbps）で使用するときは、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

- 1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 2 パソコン本体のコネクタカバーを開き①、LANケーブルのプラグをLANコネクタに差し込む②



ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

LANケーブルはモジュラーケーブルと似ているので、間違えないよう注意してください。

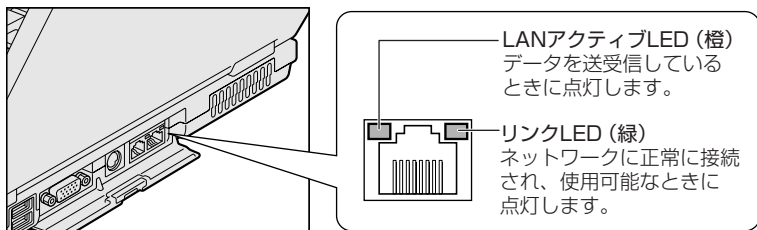
プラグの差し込み部分に線が8本または4本あるのが、LANケーブルです。

- 3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》で [検索対象] を [Windows XP ヘルプ] にして質問を入力し、検索することもできます。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。




3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

お願い

ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2 ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）

本製品には、無線LAN機能が内蔵されています。

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所から無線LANネットワークに接続できます。

無線LANアクセスポイント（別売り）を使用することによって、パソコンから無線LANネットワーク環境を実現できます。

1 無線LANの概要

本製品にはIEEE802.11b、IEEE802.11gに準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 規格値54Mbps無線LAN対応（IEEE802.11gの場合）*1
- 規格値11Mbps無線LAN対応（IEEE802.11bの場合）*1
- 周波数チャンネル選択（2.4GHz帯）
- マルチチャンネル間のローミング
- パワーマネージメント
- セキュリティ機能
（WEP128bit,WPA:Intelモジュールタイプ）
（WEP152bit,WPA,AES:Atherosモジュールタイプ）
- Atheros SuperG™機能（Atherosモジュールタイプ）*2

*1 表示の数値は、無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

*2 Atheros SuperG™機能はアクセスポイントや接続先の機器が、この機能に対応している必要があります。また通信するデータの内容により性能は変化します。

【無線LANの種類】

無線LANは、IEEE802.11bまたはIEEE802.11gに準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11bでは「直接拡散方式」（Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS）、IEEE802.11gでは「直交周波数分割多重方式」（Orthogonal Frequency Division Multiplexing, OFDM）を採用し、IEEE802.11に準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance認定のWi-Fi（Wireless Fidelity）ロゴを取得しています。Wi-Fiロゴは、IEEE802.11に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

お願い 無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

(お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です！)

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報

メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

- 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)

特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)

傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)

コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

お願い 暗号化

WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのため WEP 機能を設定されることを強くおすすめいたします。

 **参照** ▶ WEP 機能の設定「本項 4-WEP 機能を設定する」

お願い 無線 LAN を使用するにあたって

- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 3-5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線 LAN を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

無線LANネットワークには、次のような種類があります。

- 無線LANステーション同士を直接ワイヤレス接続する

▶ 「本項 2- アドホックワークグループ」

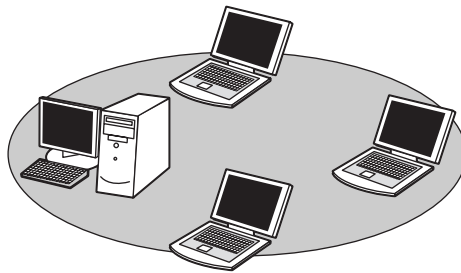
- 無線LANアクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線LANステーションに接続する

▶ 「本項 2- インフラストラクチャネットワーク」

アドホックワークグループ

無線LANアクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office（SOHO）など）で一時的なネットワークを構築する方法です。アドホックワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような「ファイルとプリンタの共有」などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



アドホックワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

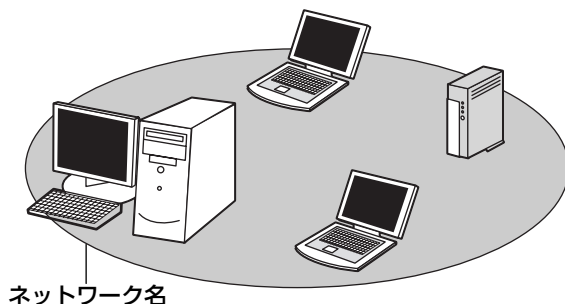
▶ アドホックワークグループの設定について
「本項 3 無線LANネットワークの基本設定」

インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用して、バックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。LAN のバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

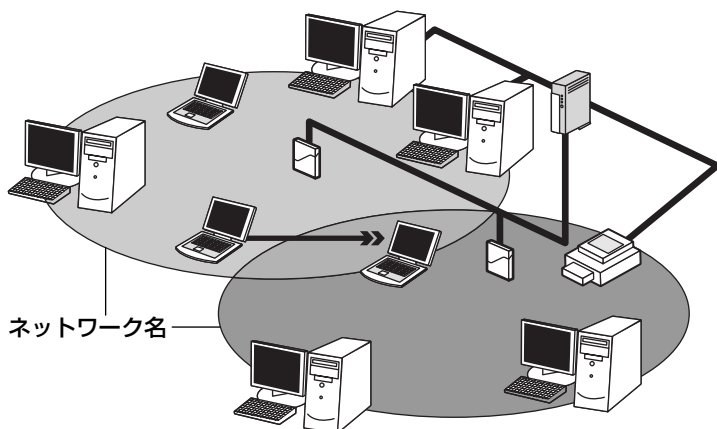
【スタンドアロンネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【インフラストラクチャネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。




どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

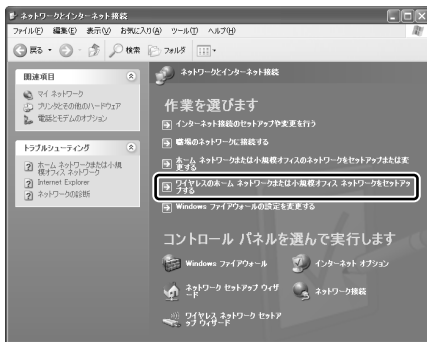
参照 → ネットワーク接続のための設定について
「本項 3 無線 LAN ネットワークの基本設定」

3 無線 LAN ネットワークの基本設定

Windows XPは、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。
接続したい無線 LAN ネットワークに応じて設定が必要です。

ネットワーク設定の方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ワイヤレスのホームネットワークまたは小規模オフィスネットワークをセットアップする] をクリックする



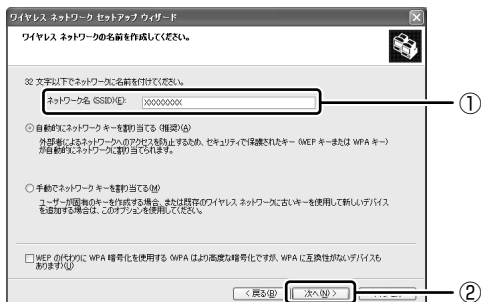
[ワイヤレスネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。

- 3 [次へ] ボタンをクリックする



[ワイヤレスネットワークの名前を作成してください。] 画面が表示されます。
パソコン本体に無線 LAN ネットワークを設定してある場合は、[タスクを選択してください。] 画面が表示されるので、指示に従ってください。
手順 4 または手順 5 に進みます。

4 ネットワーク名を入力し①、[次へ] ボタンをクリックする②



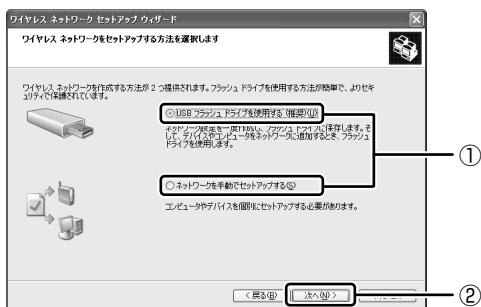
[ワイヤレスネットワークをセットアップする方法を選択します] 画面が表示されます。

すでに無線 LAN ネットワークの環境がある場合など、ユーザがネットワークキーを任意で入力したい場合は、[手動でネットワークキーを割り当てる] にチェックし、[次へ] ボタンをクリックしてください。[ワイヤレスネットワークのための WEP キーを入力してください。] 画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

参照 ▶ 「本項 4- WEP 機能を設定する」

5 目的の方法をチェックし①、[次へ] ボタンをクリックする②

他のコンピュータやデバイスを無線 LAN ネットワークに追加する方法を選択します。



別売りの USB フラッシュドライブを使用して、無線 LAN ネットワークを簡単に安全にセットアップしたい場合は、[USB フラッシュドライブを使用する] をチェックしてください。USB フラッシュドライブでセットアップするための画面が表示されるので、指示に従ってください。

それ以外の場合は、[ネットワークを手動でセットアップする] をチェックしてください。

[ウィザードの完了] 画面が表示されます。

6 [完了] ボタンをクリックする



(表示例)

手動で無線 LAN ネットワークのセットアップを行う場合は、[ネットワークの設定の印刷] ボタンをクリックしてください。ネットワークキーなどの設定が記載されている [無題 - メモ] 画面が表示されます。

他のパソコンを無線 LAN ネットワークに加える場合は、[無題 - メモ] に記載されている内容を保存し、設定を行ってください。

4 詳細設定

無線LANは、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

プロパティ画面の表示

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 2 [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- 3 [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

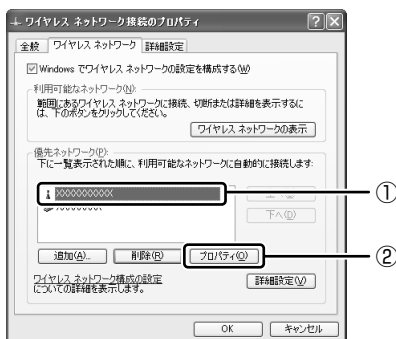
WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEPでの暗号化には128ビット、64ビットの2種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

参照 → 「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [優先ネットワーク] でネットワーク名をクリックし①、[プロパティ] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [データの暗号化] で ▼ ボタンをクリックし、[WEP] を選択する



ネットワークがアドホックワークグループの場合は、チェックしてください。

4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合
[キーは自動的に提供される]がチェックされていることを確認する
- ネットワークキーが自動的に提供されない場合
 - ① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす
 - ② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
		半角英数文字
高 (128 ビット)	13 文字	26 文字
低 (64 ビット)	5 文字	10 文字

ネットワークキーは「**** (アスタリスク)」で表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

5 無線LANを使う

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

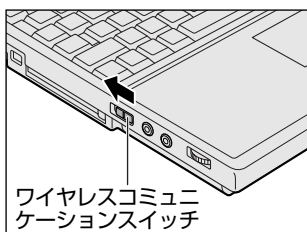
警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ(手前側)にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

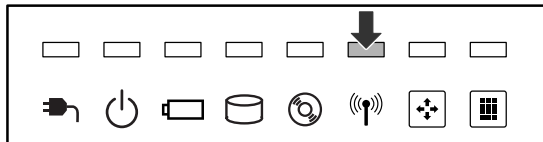
お願い

Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線LAN) LED が点灯します。



無線 LAN 機能が起動します。

無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。

利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

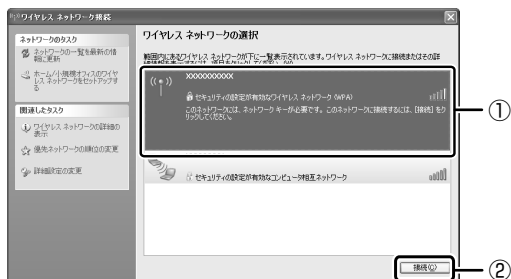
2 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコン (無線LAN) を右クリックし、表示されたメニューから [利用できるワイヤレスネットワークの表示] をクリックする

[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。

3 【利用できるワイヤレスネットワーク】の使いたいネットワークを選択し①、【接続】ボタンをクリックする②

WEP 機能を設定しているネットワークに接続するときは、ネットワークキーを入力する画面が表示されます。[ネットワークキー]、[ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力し、[接続] ボタンをクリックしてください。

参照▶ ネットワークキー「本項 -3- ネットワーク設定の方法」



接続できると、通知領域に「ワイヤレスネットワーク接続 [に接続しました]」とメッセージが表示されます。

4 【スタート】 → 【マイコンピュータ】を開き、【その他】の【マイネットワーク】をクリックする

5 【ネットワークタスク】の【ワークグループのコンピュータを表示する】をクリックする

無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

役立つ 操作集

通信状態を確認する

[ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをクリックすると [ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『ヘルプとサポート』を参照してください。

《サイバーサポート》で [検索対象] を [Windows XP ヘルプ] にして質問を入力し、検索することもできます。

3 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「コンフィグフリーConfigFree」を使うと、次のようなネットワーク設定に便利な機能が使えます。

- 近隣の無線 LAN デバイスを検索し、架空のマップ上に表示します。
- 登録しているメンバーと会議をしたり、ファイルを送信できます。
- ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示します。
- 自宅やオフィスなどのネットワーク設定をプロファイルとして登録しておけば、プロファイルを選択するだけでネットワーク設定やネットワークデバイスを切り替えられます。
- 有線 LAN ケーブルが抜かれたときに、自動で無線 LAN に切り替えます。
- 無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) に接続すると、そのネットワークで作成されていたプロファイルに自動的に切り替わります。
- 近隣で使われている無線 LAN デバイスの SSID を検出し、信号の強度に応じて仮想のマップ上に表示します。

など

他にも便利な機能が色々用意されています。

詳細については『ファーストユーザーズガイド』をご覧ください。

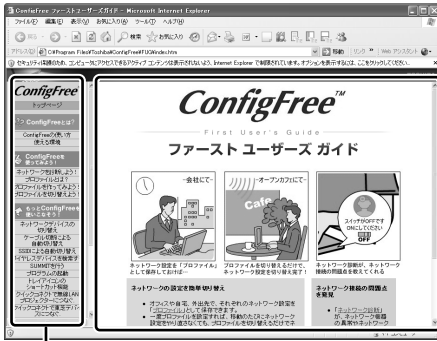
「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をクリックする

「ファーストユーザーズガイド」が表示されます。


左側に主な目次が並んでいますので、目的の項目をクリックすると右側に説明が表示されます。



説明が表示されます。

主な目次です。


「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windows を起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン () が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree] をクリックする

「ConfigFree (ネットワーク診断)」画面が表示されます。

「タスクトレイに常駐する」をチェックすると、通知領域にアイコン () が表示されます。

「ConfigFree」を起動したときは、「ConfigFree」の説明画面 (Overview) が表示されます。以降必要のない場合は、「次回から表示しない」をチェックし、「閉じる」ボタンをクリックして画面を閉じてください。

「ConfigFree」の詳細については、『ファーストユーザーズガイド』またはヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

- 1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする

「ConfigFree ヘルプ」画面が表示されます。

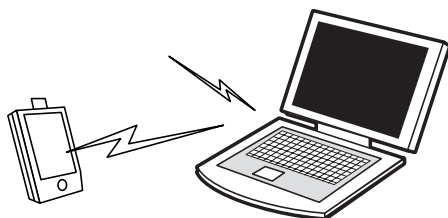
2 Bluetooth機能を使う

1 Bluetoothとは

ブルートゥース
Bluetoothとは、無線通信方法の1つです。Bluetooth対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SDカードタイプのBluetooth通信カードを装着したPDAとデータをやり取りしたり、Bluetooth対応のマウスを利用したりできます。

- PDAやマウスと…

(使用例)



また、Bluetooth対応機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、ネットワークの中心となるBluetooth対応機器1台（マスタデバイス）と、それに応答するBluetooth対応機器7台（スレーブデバイス）で最大で8台の構成になります。2つ以上のネットワークに同時に参加することもできます。

お願い

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1 または 1.2 のBluetooth対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz帯のWireless-LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

【サポートしているプロファイル一覧】

本製品でサポートしている Bluetooth プロファイルは次のとおりです。

- **ダイヤルアップネットワーキングプロファイル (DUN)**
ダイヤルアップで接続するプロファイルです。
- **FAX プロファイル (FAX)**
ファックスを転送するプロファイルです。
- **LAN アクセスプロファイル (LAP)**
アクセスポイントに接続するプロファイルです。
- **シリアルポートプロファイル (SPP)**
シリアルポートを使って接続するプロファイルです。
- **ヒューマンインタフェースデバイスプロファイル (HID)**
マウスやキーボードを接続するプロファイルです。
- **ハードコピーケーブルリプレースメントプロファイル (HCRP)**
印刷を行うプロファイルです。
- **ファイル転送プロファイル (FTP)**
ファイルを転送するプロファイルです。
- **オブジェクトプッシュプロファイル (OPP)**
vCard などのフォーマットのファイルを交換するプロファイルです。
- **ジェネリックアクセスプロファイル (GAP)**
Bluetooth の環境設定を変更するプロファイルです。
- **サービスディスカバリーアプリケーションプロファイル (SDAP)**
SDP を制御するアプリケーションに関するプロファイルです。
- **サービスディスカバリープロトコル (SDP)**
サービスを探すプロトコルです。
- **アドバンストオーディオディストリビューションプロファイル (A2DP)**
高品質のオーディオを転送するプロファイルです。
- **オーディオ/ビデオリモートコントロールプロファイル (AVRCP)**
オーディオ・ビデオのリモコンに関するプロファイルです。
- **ジェネリックオーディオ/ビデオディストリビューションプロファイル (GAVDP)**
オーディオ・ビデオコンテンツを転送するプロファイルです。
- **パーソナルエリアネットワーキングプロファイル (PAN)**
IP ベースのネットワークをサポートするプロファイルです。
- **ベーシックイメージングプロファイル (BIP)**
画像ファイルを送受信するプロファイルです。

Bluetooth を利用して Pocket PC と ActiveSync を行うことが可能です。シリアルポートを利用する場合には、通常は COM7 ポートを指定することができます。

2 Bluetooth 機能を使って通信する

1 Bluetooth通信が可能な状態にする

警告

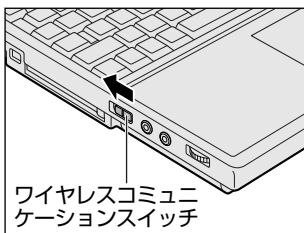
- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い

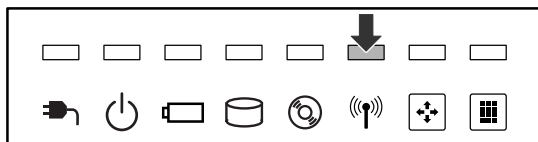
Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

Bluetooth 機能の起動方法


- 1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線) LED が点灯します。




2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Bluetooth] → [Bluetooth設定] をクリックする

「Bluetooth Manager」が起動し、通知領域に「Bluetooth Manager」アイコン（）が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回Windowsを起動したときには自動的にアイコンが表示されます。


初めて起動したときは、「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が何度か表示されます。画面に従って操作してください。

途中、「Windows XPとの互換性を検証するWindowsロゴテストに合格していません」というメッセージが表示されますが、Bluetooth対応機器のドライバに関してはデジタル署名を必要としませんので、「続行」ボタンをクリックして次の画面に進んでください。



「Bluetooth Manager」アイコン（）はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、ヘルプを確認してください。

無線LAN（Wireless LAN）と同時に使用する際の「注意」画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、「OK」ボタンをクリックして画面を閉じてください。

Bluetoothの電源が入っていない場合には、「Bluetooth Manager」アイコン（）を右クリックして表示されたメニューから、「パワーON」を選択して電源を入れてください。

本製品には、他のBluetooth対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」がプレインストールされています。通信する方法については、『Bluetooth東芝ユーティリティユーザーズガイド』をご覧ください。

Bluetooth 東芝ユーティリティユーザーズガイドの起動方法

『Bluetooth 東芝ユーティリティユーザーズガイド』では、「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」について説明しています。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Bluetooth] → [ユーザーズガイド] をクリックする

3 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90 に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90 以外の場合は、最大 33.6Kbps で接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。

 参照 モジュラーケーブルの接続 《できる dynabook》

- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、「付録 2 技術基準適合について」を参照してください。

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

設定方法については、《サイバーサポート（検索）：海外でインターネットに接続したい》をご覧ください。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

3章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り付けかたや各種設定について説明しています。

1	周辺機器について	62
2	PC カードを接続する	64
3	USB 対応機器を接続する	67
4	テレビを接続する	69
5	外部ディスプレイを接続する	74
6	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	76
7	その他の機器を接続する	78
8	メモリを増設する	80


1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器については、それぞれの機器に付属の説明書もあわせてお読みください。周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- PC カード
- スキャナ
- マウス（本製品では同梱）
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- モデム（本製品では内蔵）
- フロッピーディスクドライブ
- デジタルカメラ
- 増設メモリ*1

* 1 増設の際は、メモリ購入前に「本章 8 メモリを増設する」をご覧ください。

 **参照** 周辺機器の接続場所『さあ始めよう 2 章 1 各部の名前』

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。
- スタンバイ／休止状態中に周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

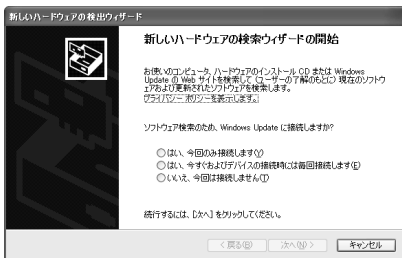
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続すると Windows がドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかったら、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2 PC カードを接続する

目的に合わせた PC カード^{ピーシー}を使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PC カードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- SCSI^{スキャシー} カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1) PC カードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE I / II 対応のカード (CardBus 対応カードも含む) を使用できます。

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け/取りはずし (ホットインサージョン) に対応しているので便利です。

使用している PC カードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

お願い

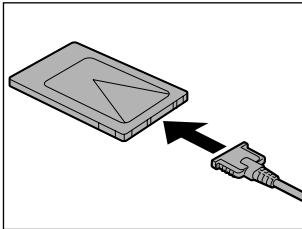
- ホットインサージョンに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け/取りはずしを行ってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2) PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

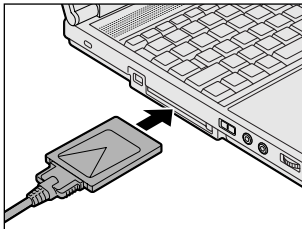
1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。



カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

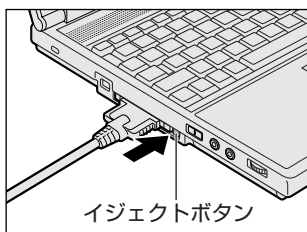
お願い

取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PCカードの使用を停止する

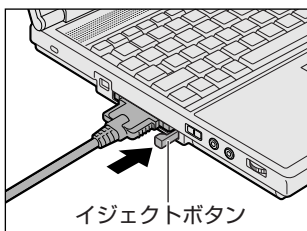
- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



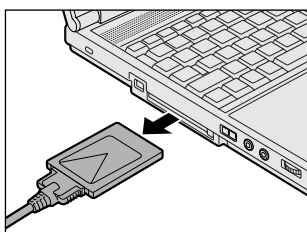
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう1度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

3 USB 対応機器を接続する

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

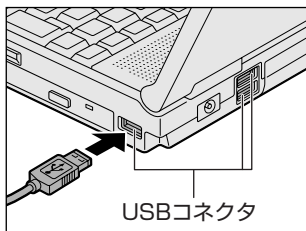
USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む



この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから「XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します」をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、「閉じる」ボタン () をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

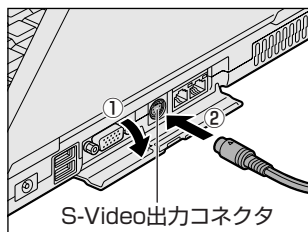
4 テレビを接続する

本製品に用意されている S-Video 出力コネクタとテレビを S 端子ケーブルで接続すると、テレビ画面にデスクトップ画面を表示させることができます。
接続する S 端子ケーブルは、4 ピンコネクタのケーブルを使用してください。

1 取り付け

テレビとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、S 端子ケーブルのプラグを S-Video 出力コネクタに差し込む②



S 端子ケーブルのプラグの向きをよく確認してから S-Video 出力コネクタに差し込んでください。

- 2 S 端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビの S1/S2 映像入力端子に差し込む

音声はパソコンのスピーカーで聞か、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。



お願い

- 必ず、DVD-Video などを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

メモ

テレビに表示する場合は、1024×768ドット以下の解像度でご覧ください。

【方法1 – [画面のプロパティ] で設定する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
- 4 [Intel(R) Extreme Graphics] タブで [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする
- 5 [デバイス] タブで表示する装置を選択する



✓ がついているアイコンが現在の表示装置です。
変更するときは画面左側の表示装置のアイコンをクリックしたあと、形式を選択します。

- 本体液晶ディスプレイだけに表示
[ノートブック] アイコンをクリックしてください。
- テレビだけに表示
[テレビ] アイコンをクリックしてください。
[ビデオ標準] では 10 種類のモードが表示されますが、次の 3 つのみ使用してください。
 - ・ NTSC-M (米国仕様の TV 受信機)
 - ・ NTSC-J (日本仕様の TV 受信機)
 - ・ PAL-B (ヨーロッパ仕様の TV 受信機)
- 外部ディスプレイだけに表示
[PC モニタ] アイコンをクリックしてください。

● Clone 表示 (クローン表示)

2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

- ① [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリックする
- ② 表示に合わせた設定をする


項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイで Clone 表示	ノートブック	PC モニタ
本体液晶ディスプレイとテレビで Clone 表示	ノートブック	テレビ

● 拡張表示

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用できます。

本体液晶ディスプレイと外部液晶ディスプレイまたはテレビの両方にクローン表示している場合、[画面のプロパティ] から拡張表示を設定できません。**(CTRL)+(ALT)+(F12)**キーを押して設定画面を表示し、次のように操作します。

- ① [拡張デスクトップ] アイコンをクリックする

[拡張デスクトップ] アイコンが表示されていない場合は、 ボタンをクリックしてください。

- ② 表示に合わせた設定をする

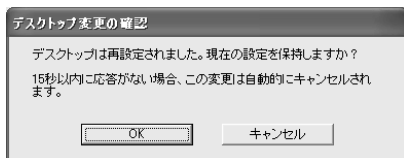
項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイで拡張表示	ノートブック	PC モニタ
本体液晶ディスプレイとテレビで拡張表示	ノートブック	テレビ

メモ

本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイを Clone 表示 (クローン表示) または拡張表示に設定する際に、外部ディスプレイにノイズが発生した場合は、外部ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートを下げてご使用ください。設定は、Clone 表示 (クローン表示) または拡張表示に設定したあと、[デバイス] タブの [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示される画面で行います。

6 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



7 [OK] ボタンをクリックする

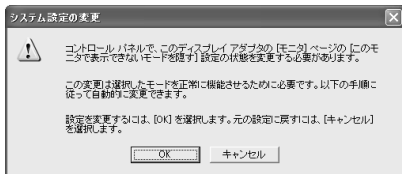
8 [OK] ボタンをクリックする

9 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

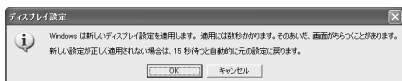
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [[はい] ボタンをクリックしてください。

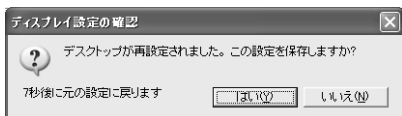
● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



【方法2 - (FN) + (F5) キーを使う】

(FN) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(FN) キーを押したまま (F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(FN) キーを離すと表示装置が切り替わります。

- 表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法

現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、**(FN)+(F5)**キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指を離してから、**(FN)+(F5)**キーを3秒以上押し続けてください。



- LCD 本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT 外部ディスプレイだけに表示
外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD / TV 本体液晶ディスプレイとテレビに同時表示
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。

「方法1」で「拡張表示」に設定した場合は、**(FN)+(F5)**キーで表示装置を切り替えられません。「方法1」の手順で表示装置を切り替えてください。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは「Windowsのログオフ」画面で「ログオフ」を選択して切り替えてください。「ユーザーの切り替え」で切り替えた場合は、**(FN)+(F5)**キーで表示装置を切り替えられません。

参照 ユーザアカウントの切り替え《できるdynabook》

3 取りはずし

パソコン本体の電源を切ってから、テレビの電源を切った後、取りはずしを行ってください。

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるS端子ケーブルを抜く

5 外部ディスプレイを接続する

フルサイズ

RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

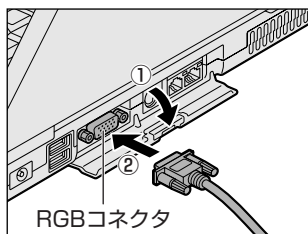
メモ

使用可能なディスプレイは解像度により異なります。解像度にあったディスプレイを接続してください。

1 接続

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む②



外部ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、パソコン本体の電源を切ってから、外部ディスプレイの電源を切った後、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。

【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合を確認してください。

参照 → テレビ接続について「本章 4-2 テレビに表示する」

メモ

外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ／本体液晶ディスプレイとも、本体液晶ディスプレイの色数／解像度で表示されます。

3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照 → ビデオモードについて「付録 1-2 サポートしているビデオモード」

6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

アイリンク アイトリプルイーイチサンキューヨン

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ

i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

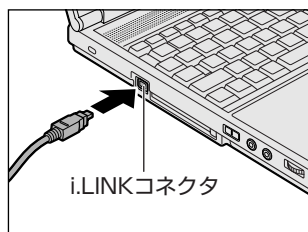
お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っているときに他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

1 i.LINK (IEEE1394) ケーブルのプラグを i.LINK コネクタに差し込む



プラグの向きを確認して差し込んでください。



2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

* デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、『ヘルプとサポート』を参照してください。《サイバーサポート》で [検索対象] を [Windows XP ヘルプ] にして質問を入力し、検索することもできます。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

7 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1) マイクロホン

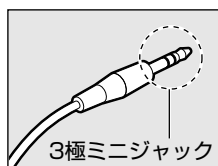
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

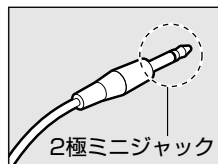
参照 ▶ サウンド機能について「1章 3 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

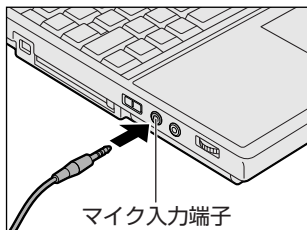
音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

本製品には、音声認識ソフト「LaLaVoice」が用意されています。

参照 ▶ 「LaLaVoice」について
《サイバーサポート（検索）：パソコンを音声で操作したい》

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

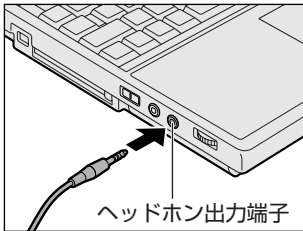
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

8 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大2GBまでです。

⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはさず際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、警告音（ビーブ音）が鳴ります。スロットAがエラーの場合は「ピー・ピッ」と、スロットBがエラーの場合は「ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。また、2つのスロットがエラーの場合は、A→Bの順に「ピー・ピッ・ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。

お願い 静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

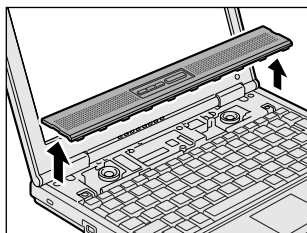
あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照▶ 「本節 2 取りはずし」

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照▶ バッテリーパックについて「4章 1-③ バッテリーパックを交換する」

- 4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす

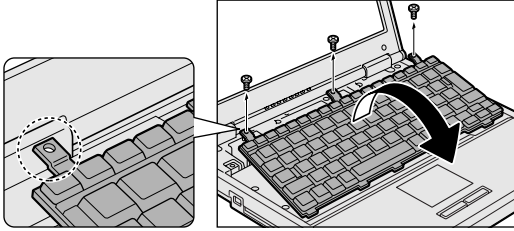


キーボードホルダ両側にある切り欠き部に指をかけ、右側からゆっくりと慎重に引き上げます。

お願い

キーボードホルダをはずした場合、内部のスピーカにさわったり、傷をつけないようにしてください。

5 キーボード上部のネジ3本をはずし、キーボードを手前に裏返す

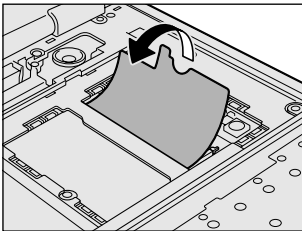


ネジが本体内部に入らないようにしてください。

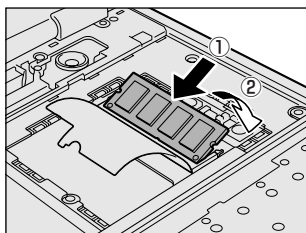
お願い

- キーボードの裏には、接続ケーブルがあります。接続ケーブルは、はずしたり、傷つけたり、無理な力を加えないでください。断線や接触不良の原因となり、キー入力ができなくなるおそれがあります。
- キーボードをディスプレイに立てかけたりぶつけたりして、傷をつけないようにしてください。

6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる



7 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す

お願い

インシュレータは必ず元に戻してください。キーボードとパソコン内部が接触すると動作不良の原因となります。

9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ3本でとめる

10 キーボードホルダを取り付ける

まずパソコン本体のキーボード側にキーボードホルダ前面のツメを押し込み、キーボードホルダ後側と左右を押して取り付けます。

11 バッテリーパックを取り付ける

参照▶ バッテリーパックについて「4章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照▶ メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る


参照▶ 電源の切りかた『さあ始めよう 1章 4 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす


3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照▶ バッテリーパックの取りはずし「4章 1-③ バッテリーパックを交換する」

- 4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす
- 5 キーボード上部のネジ3本をはずし、キーボードを手前に裏返す
ネジが本体内部に入らないようにしてください。
- 6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる
- 7 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす
斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。
- 8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す
- 9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ3本でとめる
- 10 キーボードホルダを取り付ける
- 11 バッテリパックを取り付ける

 **参照** バッテリパックの取り付け 「4章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

 **参照** メモリ容量の確認について 「本節 3 メモリ容量の確認」

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報] タブで [メモリ] の数値を確認する

 **参照** 「東芝 PC 診断ツール」について

『困ったときは 1 章 3-① パソコンの情報を見る／状態を診断する』

メインメモリはビデオ RAM と共用のため、[基本情報] タブで表示されるメモリ容量は、実際の搭載メモリより少なく表示されます。

4章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたに気をつければ、より長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

1	バッテリーについて	86
2	省電力の設定をする	95
3	パソコンの使用を中断する／電源を切る	96

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーパックを充電してから使用してください。バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

危険

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー(TOSHIBA バッテリーパック:PABAS051)をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

警告

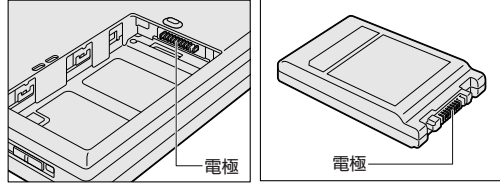
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（5～35℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1度全バッテリーを充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

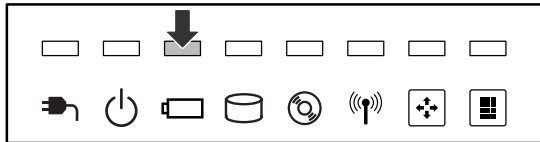


1) バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



Battery  LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none">・ バッテリーが接続されていない・ AC アダプタが接続されていない・ バッテリー異常 異常の場合は、購入店または近くの保守サービスに連絡してください。

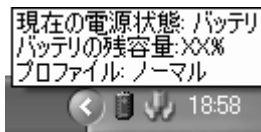
バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。

 参照 ▶ バッテリーの充電について「本節 ② バッテリーを充電する」


2 通知領域の [東芝省電力] アイコンで確認する


通知領域の [東芝省電力] アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。




 参照 ▶ 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1 ヶ月以上の長期にわたり、AC アダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や [東芝省電力] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1 ヶ月に 1 度は再充電することを推奨します。

 参照 ▶ 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき


電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
東芝省電力の「アクション設定」タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続し電源を入れているとき（電源 ON 時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリー
電源 ON（Power  LED が緑色に点灯）	14 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリーを充電する



充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

1 充電方法


1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントに差し込む

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードの電源プラグをコンセントに差し込むと、パソコン本体の電源の ON / OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【 充電完了までの時間 】

バッテリーパックは消耗品です。バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

状態	充電時間
電源 ON	約 4～10 時間
電源 OFF	約 2.5 時間

【 使用できる時間 】

バッテリーパックは消耗品です。バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳細は、『dynabook CX/3 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【 使っていないときの充電保持時間 】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。
次の保持時間は、充電完了した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	保持時間
電源 OFF または休止状態	約 25 日
スタンバイ	約 6 日

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリーを長持ちさせるには


- ACアダプタをパソコン本体に接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにもACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヵ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる 電源が入らない場合は手順4へ進んでください。

3 5分程度バッテリー駆動を行う


この間、Battery  LEDが点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントにつなぐ

DC IN  LEDが緑色に点灯してBattery  LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。




5 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery  LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN  LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする  「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力のプロファイルに設定する  「本章 2 省電力の設定をする」

3) バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け／取りはずし的时候には、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

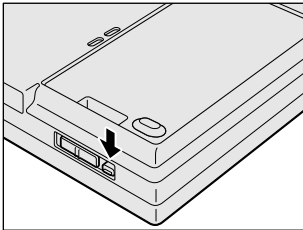
参照▶ 電源の切りかた『さあ始めよう 1章 4 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体からACアダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

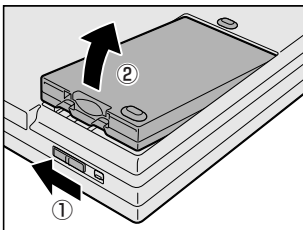
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリー安全ロックを矢印の方向に移動する

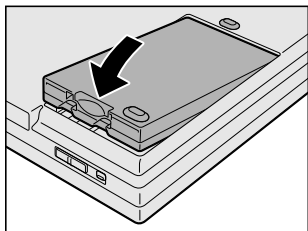
ロックが解除され、バッテリー・リリースラッチがスライドできるようになります。



5 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを取りはずす②



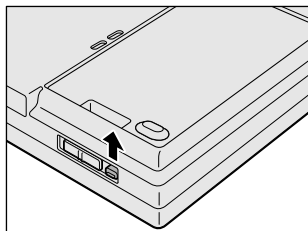
6 交換するバッテリーパックを、カチッという音がするまで静かに差し込む



バッテリー・リリースラッチが自動的にスライドして、「カチッ」という音がします。

7 バッテリー安全ロックを矢印の方向に移動する

バッテリーパックがはずれないように、バッテリー安全ロックを必ずロック位置にしてください。



2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

省電力の設定をまとめたものをプロファイルといいます。使用環境にあわせて設定されたプロファイルがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときにプロファイルを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。プロファイルの設定を変更したり、新しくプロファイルを追加することもできます。

1 東芝省電力

省電力の設定は「東芝省電力」から行います。

ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありませんが、ディスプレイの明るさなどはお好みにあわせて設定してください。

1 東芝省電力の起動方法

- 1 【コントロールパネル】を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。



(表示例)

使いかたについては、ヘルプをご覧ください。

ヘルプの起動方法

- 1 「東芝省電力」を起動後、画面右上の [?] をクリックする
ポインタが [?] に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする
ヘルプの該当するページが表示されます。

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
 - スタンバイ中に次のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・ スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
 - ・ スタンバイ中にバッテリーパックをはずすこと
- また、スタンバイ中にバッテリー残量が減少したときも同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
- システムが起動しないときは、電源スイッチを5秒以上押し続けて電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailureで起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
 - スタンバイまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
 - パソコン本体を航空機や病院に持ち込むとき、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与えることがあります。
 - スタンバイまたは休止状態を実行するときは、CD / DVD への書き込みが完全に終了していることを確認してください。書き込み途中のデータがある状態でスタンバイまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。CD / DVD を取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

メモ

(FN)+(F3)キーを押して、スタンバイにすることもできます。

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入ると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [電源オプション] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態を有効にする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 (SHIFT) キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(SHIFT) キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わりません。



Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

メモ

(FN)+(F4)キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る / パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ / 休止状態にすることができます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。解除した場合は、「本節 2-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アクション設定] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [シャットダウン] のいずれかを選択する [何もしない] に設定すると、特に変化はありません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順 1 の③で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

2 ディ스플레이を閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

1 ディ스플레이を閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アクション設定] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 ディ스플레이を閉じる

設定した状態へ移行します。

手順1の③で [スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

5章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 102
 - 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 103

1 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。



お願い

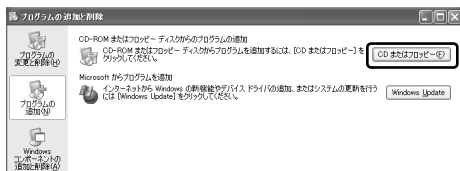
- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。
[プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合があります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMなどをセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CDまたはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でも、再インストールして使用することができます。

参照 → 再インストールについて

『困ったときは 4章 3 アプリケーションを再インストールする』

アプリケーションを削除する方法を説明します。


アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。

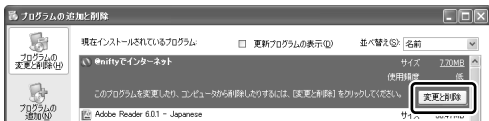
アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



(表示例)

表示されるメッセージに従って操作してください。

6章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 106
 - 2 BIOS セットアップを使う 107

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

変更できる項目		Windows 上のユーティリティ
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定		「東芝 HW セットアップ」 参照▶ 《サイバーサポート（検索）：東芝 HW セットアップ》
パスワードセキュリティの設定	ユーザパスワード	「東芝 HW セットアップ」の [パスワード] タブ 参照▶ 《サイバーサポート（検索）：ユーザパスワード》
	スーパーバイザパスワード	「スーパーバイザパスワードユーティリティ」 参照▶ 《サイバーサポート（検索）：スーパーバイザパスワード》
省電力の設定		「東芝省電力」 参照▶ 「4 章 2 省電力の設定をする」

ユーザパスワードでキーフロッピーディスクを作成したい場合は、BIOS セットアップで登録してください。

参照▶ パスワードの種類について『さあ始めよう 4 章 パスワードについて』

BIOS セットアップについては「本章 2 BIOS セットアップを使う」をご覧ください。

2 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。
BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリー（時計用バッテリー）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップの起動と終了、基本操作について説明します。

1 起動

1 (ESC)キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したユーザパスワードを入力し、(ENTER)キーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 (F1)キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 基本操作

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	(↑) 、 (↓) 、 (←) 、 (→) 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	(SPACE) または (BACKSPACE)
画面を切り替える	(FN) + (↓) または (FN) + (↑) 本製品では、 (FN) + (↓) が (PGDN) キー、 (FN) + (↑) が (PGUP) キーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	(FN) + (←) 本製品では、 (FN) + (←) が (HOME) キーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD ●Hard Disk Mode

3 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 **(FN) + (→)**キーを押す

本製品では、**(FN) + (→)**が**(END)**キーの機能を持ちます。
画面にメッセージが表示されます。

2 **(Y)**キーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合には、この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 **(ESC)**キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 **(Y)**キーを押す

BIOSセットアップが終了します。

2) BIOS セットアップの画面

BIOS セットアップには次の2つの画面があります。

SYSTEM SETUP (1/2) ACPI BIOS version = X. XX

① **MEMORY**
Total = XXXXXXKB

② **SYSTEM DATE/TIME**
Date (MM-DD-YYYY) = XX-XX-XXXX
Time (HH:MM:SS) = XX:XX:XX

③ **BATTERY**
Battery Save Mode = Full Power

④ **PASSWORD**
Not Registered

⑤ **BOOT PRIORITY**
Boot Priority = HDD → FDD → CD-ROM → LAN
HDD Priority = Built-in HDD → PC Card
Network Boot Protocol = PXE

DISPLAY
Power On Display = Auto-Selected
LCD Display Stretch = Enabled
TV Type = NTSC(JAPAN) ⑥

OTHERS
Power-up Mode = Boot
CPU Cache = Enabled
Level 2 Cache = Enabled
Dynamic CPU Frequency Mode*1 = Dynamically Switchable ⑦
Auto Power On = Disabled
Start Up Logo = Animation
Sound Logo = Enabled
Power Button Lamp = Mode 1

↑↓←→: Select items **Space,BkSp**: Change values **PgDn,PgUp**: Change pages
Esc: Exit without saving **Home**: Set default values **End**: Save changes and Exit

* 1 Pentium モデルのみ表示されます。

SYSTEM SETUP (2/2) ACPI BIOS version = X. XX

⑧ **CONFIGURATION**
Device Config. = Setup by OS

⑨ **DRIVES I/O**
Built-in HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14)
CD-ROM = Secondary IDE(170H/IRQ15)

⑩ **PCI BUS**
PCI BUS = IRQ10, IRQ11

PC CARD
Controller Mode = Auto-Selected ⑪

PERIPHERAL
Internal Pointing Device = Enabled ⑫
Hard Disk Mode = Enhanced IDE(Normal)

LEGACY EMULATION
USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled ⑬
USB-FDD Legacy Emulation = Enabled

PCI LAN
Built-in LAN = Enabled ⑭

↑↓←→: Select items **Space,BkSp**: Change values **PgDn,PgUp**: Change pages
Esc: Exit without saving **Home**: Set default values **End**: Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

参照 → 設定項目の詳細について「本節 ③ 設定項目」

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY—メモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME—日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定は(SPACE)または(BACKSPACE)キーで行います。
月と日と年、時と分と秒の切り替えは、(↑)(↓)キーで行います。

【 Date 】

日付を設定します。

【 Time 】

時刻を設定します。

3 BATTERY—バッテリーで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】

バッテリーセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)

Processing Speed = High
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.
HDD Auto Off = 30Min.
System Auto Off = Disabled
LCD Brightness = Bright*1
Super-Bright*2
Cooling Method = Maximum Performance

●User Setting (設定例)

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Super-Bright
Cooling Method = Battery Optimized

●Low Power

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Semi-Bright*1
Bright*2
Cooling Method = Battery Optimized

- (注1) System Auto Off (システム自動停止時間) は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。
- (注2) LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。
- * 1 バッテリ駆動時
 - * 2 AC アダプタ接続時

「User Setting」で「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑) (↓) キーを押して選択項目を「Processing Speed」または「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

● Display Auto Off (表示自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合 (マウスやタッチパッドの操作も含む) にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、(SHIFT) キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

● HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

- System Auto Off (システム自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「10Min.」～「60Min.」から選択します。

- LCD Brightness (LCD 輝度)

画面の明るさを選択します。

- ・ Semi-Bright 低輝度に設定する
- ・ Super-Bright 最高輝度に設定する
- ・ Bright 高輝度に設定する

- Cooling Method (CPU 熱制御方式)


CPU の熱を冷ます方式を選択します。

CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ Maximum Performance ... CPU 温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させて CPU に風を送り、冷やします。
- ・ Performance CPU が高温になったときに、本体内にあるファンが作動し CPU に風を送り、冷やします。
- ・ Battery Optimized CPU が高温になったときに、CPU の処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

4 PASSWORD—ユーザパスワードの登録／削除をする

ユーザパスワードの登録や削除は「東芝 HW セットアップ」で行うことを推奨します。

 参照 ▶ 東芝 HW セットアップでのパスワード設定

《サイバースポート (検索) : ユーザパスワード》

キーフロッピーディスクを作成したい場合は、BIOS セットアップで登録してください。パスワードの入力エラーが 3 回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度登録を行ってください。

【 Not Registered 】

ユーザパスワードが登録されていないときに表示されます (標準値)。

【 Registered 】

ユーザパスワードが登録されているときに表示されます。

■ ユーザパスワードの登録とキーフロッピーディスクの作成 ■

キーフロッピーディスクとは、ユーザパスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのことです。BIOS セットアップで作成してください。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DD（720KB）または2HD（1.44MB）フロッピーディスクとフロッピーディスクドライブが必要です。あらかじめ用意してください。

キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよく確認してから、使用してください。


次のように操作します。

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、(SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

ユーザパスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、ユーザパスワードを削除してから、登録してください。

 ユーザパスワードの削除方法「本項 4- ユーザパスワードの削除」

3 パスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力できます。パスワードに使用できる文字は、「東芝HWセットアップ」の場合と同様です。

パスワードは1文字ごとに*が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 (ENTER)キーを押す

1回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。

6 (ENTER) キーを押す

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順 3 からやり直してください。

7 ユーザパスワードの登録が終了したら、(FN) + (→) キーを押す

本製品では、(FN) + (→) が (END) キーの機能を持ちます。
次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.
Insert password service disk if necessary.

8 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットして (Y) キーを押す

作成しないでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずに (Y) キーを押します。

BIOS セットアップの画面に戻るには (N) キーを押します。

手順 9 はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

9 キーフロッピーディスクを作成する

次のメッセージが表示されます。

Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)

- ① セットされているフロッピーディスクが 2HD の場合は ① キーを、2DD の場合は ② キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します (フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します)。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

Remove the password service disk, then press any key.

- ② フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

参照 キーフロッピーディスクの使いかた

「本項 4- ユーザパスワードを忘れてしまった場合」

■ ユーザパスワードの削除 ■

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、 (SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 (ENTER)キーを押す

パスワードが削除されます。

入力したパスワードが登録したユーザパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

■ ユーザパスワードを忘れてしまった場合 ■

キーフロッピーディスクを使用して、登録したユーザパスワードの解除と再登録ができます。また、再登録したユーザパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。

キーフロッピーディスクを作成していなかったときにユーザパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

1 「Password= 」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフ ロッピーディスクドライブにセットして、(ENTER)キーを押す

パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Set Password Again ? (Y/N)

2 パスワードを再登録する場合は、**(Y)**キーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本項 4- ユーザパスワードの登録とキーフロッピーディスクの作成」の手順2以降を行ってください。再登録後、システムが再起動します。

パスワードを再登録しない場合は、**(N)**キーを押す

次のメッセージが表示されます。

Remove the Disk, then press any key.

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

■ ユーザパスワードの変更 ■

ユーザパスワードを削除してから、登録を行ってください。

5 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
- ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
- ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
- ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
- ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
- ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD

指定のドライブ順に起動する

【 HDD Priority 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- ・ Built-in HDD → PC Card (標準値) ... パソコン本体のハードディスク → PC Card
タイプのハードディスクの順で起動する
- ・ PC Card → Built-in HDD PC Cardタイプのハードディスク → パン
コン本体のハードディスクの順で起動する

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- ・ PXE (標準値) PXE プロトコルに設定する
- ・ RPL RPL プロトコルに設定する

6 DISPLAY—起動時の表示の設定をする

起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。

【 Power On Display 】

起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) .. システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは本体液晶ディスプレイだけに表示する
- ・ LCD + Analog RGB 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示する

SVGA モードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD + Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

Windows 起動後は、前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在しない場合は、本体液晶ディスプレイに表示されます。

【 LCD Display Stretch 】

本体液晶ディスプレイで、解像度の小さい表示モードを伸張させて表示させるかを選択します。

- ・ Disabled 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する
- ・ Enabled (標準値) ... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する

【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

- ・ NTSC (JAPAN) (標準値) .. 日本仕様の TV 受信機
- ・ PAL ヨーロッパ仕様の TV 受信機
- ・ NTSC (US) 米国仕様の TV 受信機

7 OTHERS—その他の設定をする

【 Power-up Mode (レジューム機能) 】

レジューム機能を設定します。

- ・ Boot (標準値) レジューム機能を無効にする
- ・ Resume レジューム機能を有効にする

【 CPU Cache (キャッシュ) 】

CPU内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Disabled キャッシュメモリを使用しない
- ・ Enabled (標準値) ... キャッシュメモリを使用する

【 Level 2 Cache 】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- ・ Enabled (標準値) ... 2次キャッシュを使用する
- ・ Disabled 2次キャッシュを使用しない

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

* Pentium モデルのみ表示されます。

- ・ Dynamically Switchable (標準値) CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
- ・ Always High CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、このパソコンに搭載されているCPUの最高周波数で動作します。搭載されているCPUはモデルによって異なります。
- ・ Always Low CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低い周波数で動作します。

【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】


タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は 1 回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

Windows XP を使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windows のタスクスケジューラを使用してください。

- ・ Disabled (標準値) ... タイマ・オン機能が設定されていない
- ・ Enabled タイマ・オン機能が設定されている

タイマ・オン機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能 (Auto Power On) を設定してシステムを起動させた場合、「Password =」と表示されます。パスワードセキュリティで登録したユーザパスワードを入力すると、休止状態から Windows に復帰します。

 参照 ▶ パスワードセキュリティの設定「本章 1 システム環境の変更とは」

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は (SPACE) または (BACKSPACE) キーで行います。

時と分、月と日の切り替えは (↑) (↓) キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled 月日を設定しない

● Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

また、この機能は PC カードタイプのモデムでは使用できません。

- ・ Disabled (標準値) ... リングインジケータ機能を使用しない
- ・ Enabled リングインジケータ機能を使用する

【 Start Up Logo 】

起動時に表示される「dynabook」ロゴについて設定します。

- ・ Animation (標準値) アニメーションロゴが表示される
- ・ Picture ピクチャ (静止画) ロゴが表示される

【 Sound Logo 】

パソコンを起動したときに音を鳴らすかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ... 音を鳴らす
- ・ Disabled 音を鳴らさない

【 Power Button Lamp 】

電源スイッチのランプの光りかたのパターンを設定します。

状態	電源 ON	スタンバイ	電源オフ/休止状態
Mode 1 (標準値)	青色に点灯	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
Mode 2	オレンジ色に点灯	白色に点灯	白色に点灯
Mode 3	緑色→オレンジ色 →青色の順に点滅	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
Off	常に消灯		

なお、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずすと、いったん設定がMode 1 (標準値)に戻ります。その後パソコン本体の電源を入れると、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずす前の設定に戻ります。

【 Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能) 】

ディスプレイの開閉による電源の入/切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- ・ Enabled パネルスイッチ機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) ... パネルスイッチ機能を使用しない


8 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- ・ Setup by OS (標準値) ... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
この場合、「PC CARD」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- ・ All Devices..... すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」(標準値) を選択することを推奨します。ただし「PC CARD」内の [Controller Mode] の設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。

 参照 「PC CARD」について「本項 11 PC CARD」

9 DRIVES I/O – HDD、CD-ROM、PC カードの設定

【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 CD-ROM 】

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

内蔵されているドライブが CD-ROM ドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

【 PC Card 】

PC カードタイプ (TYPE I または II) のハードディスク (別売り) からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。

システムを起動できる PC カードのタイプ (TYPE I または II) のハードディスク (別売り) を PC カードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。

10 PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 PC CARD—PCカードのモードを選択する

【 Controller Mode 】

PCカードのモードを選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) ... プラグアンドプレイに対応したOSを使用している場合、選択します。
- ・ PCIC Compatible Auto-SelectedやCardBus/16-bitで正常に動作しない16-bit PCカードを使用する場合に選択します。
- ・ CardBus/16-bit Auto-Selectedで正常に動作しないCardBus対応のPCカードを使用する場合に選択します。

12 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 使用する
- ・ Disabled 使用しない

メモ

[Disabled] に設定すると、Windows上からタッチパッドのON／OFFはできません。

【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) (標準値) 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE Enhanced IDEに対応していないOSを使用する場合に選択する
この場合、528MBまでが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

13 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード / USB マウスが使用できます。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

- ・ Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、

⑤「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

14 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値) ... 有効にする
- ・ Disabled 無効にする

付録

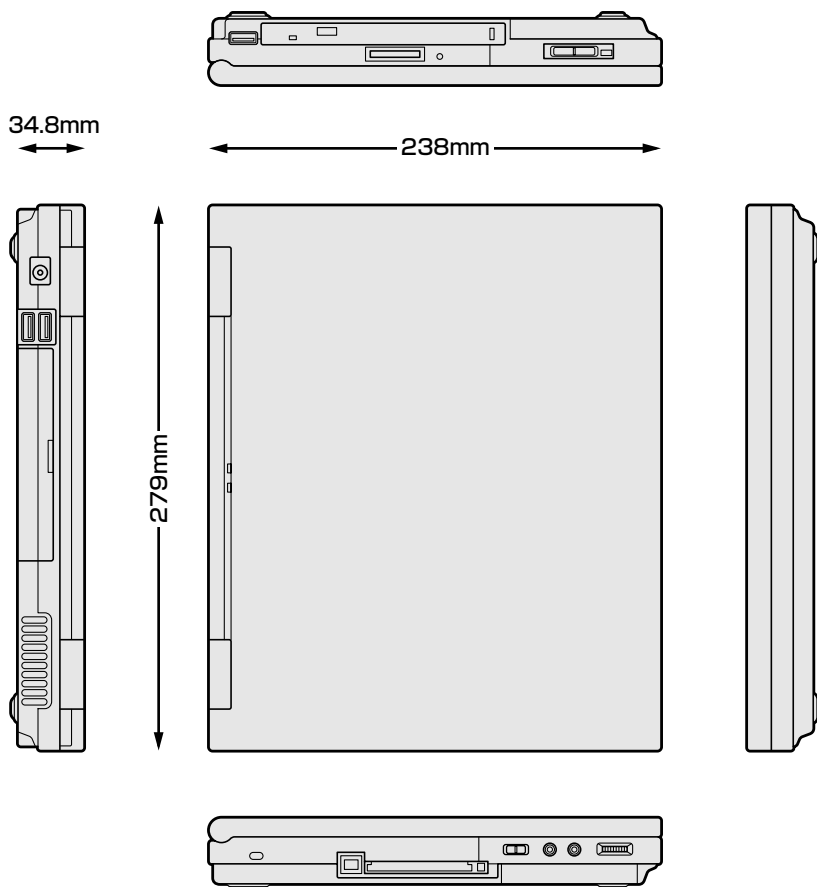
本製品などのハードウェア仕様や、技術基準適合について記しています。

-
- 1 本製品の仕様 126
 - 2 技術基準適合について 129
 - 3 無線LANについて 141
 - 4 Bluetoothについて 150

1 本製品の仕様

1 外形寸法図

* 数値は突起部を含みません。



2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照 → 表示可能色数の詳細について
 「1章 1-①-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字			
0*,1*		40 x 25字	8 x 14		
2*,3*		80 x 25字			
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16		
2+,3+		80 x 25字			
4,5	VGA	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	
6	グラフィックス	640 x 200ドット		2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	
7+			8(9) x 16		
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
E		640 x 200ドット			
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10				16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	60
12				16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640×480ドット	—	256/256K	60/75/85 /100
—		800×600ドット	—		
—		1024×768ドット	—		
—		1280×1024ドット*1	—		
—		1400×1050ドット*1	—		60/75/85
—		1600×1200ドット*1	—		60/75/85 /100
—		1920×1440ドット*1	—		60/75/85
—		2048×1536ドット*1	—		60/75
—		640×480ドット	—	64K/64K	60/75/85 /100
—		800×600ドット	—		
—		1024×768ドット	—		
—		1280×1024ドット*1	—		
—		1400×1050ドット*1	—		60/75/85
—		1600×1200ドット*1	—		60/75/85 /100
—		1920×1440ドット*1	—		60/75/85
—		2048×1536ドット*1	—		60/75
—		640×480ドット	—	16M/16M	60/75/85 /100
—		800×600ドット	—		
—		1024×768ドット	—		
—		1280×1024ドット*1	—		
—	1400×1050ドット*1	—	60/75/85		
—	1600×1200ドット*1	—	60/75/85 /100		
—	1920×1440ドット*1	—	60/75/85		
—	2048×1536ドット*1	—	60/75		

* 1 LCDに表示する場合は、実際の画面（1024×768）内に、仮想スクリーン表示します。
注）一部の画面モードはデフォルトリフレッシュモード、マルチモニタでは使用できません。

2 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

▶ 『困ったときは 3章 その他-Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい』

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



▶ 省電力設定について 「4章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : dynabook CX/3 series

Model number : PP415

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2004年9月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ承してください。



設定について

《サイバーサポート（検索）：海外でインターネットに接続したい》

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1 **NOTICE** : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353A-L4AINT

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
- c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal. Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic DVD-RAM ドライブ UJ-812B (DVD マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

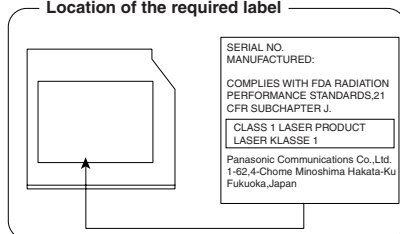
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE. EN CAS D'OUVERTURE, EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNNGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLING NÄR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FÖR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO!	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label



Panasonic CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA755 (DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION

CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

ATTENTION

CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT

KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

ADVARSEL

KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.

ADVARSEL

KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.

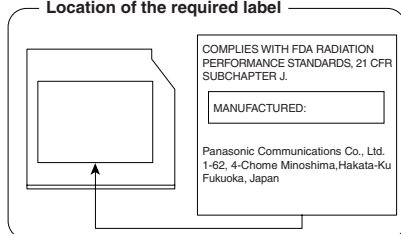
VARNING

KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

VARO!

KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label



3 無線 LAN について

1 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	IEEE802.11g, IEEE802.11b	2.4GHz (2400-2497MHz)
変調方式	IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広がります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

2 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャンネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります (表「無線 IEEE802.11 チャンネルセット」参照)。各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

【無線 IEEE802.11 チャンネルセット】

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャンネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 *1
11	2462
12	2467 *2
13	2472 *2
14	2484 *2

* 1 購入時に設定されているチャンネルです。

* 2 これらのチャンネルが使用可能かどうかは、使用する無線 LAN モジュールによって異なります。使用可能チャンネルについては、同梱の『ご使用できる国／地域について』を参照してください。

無線 LAN をインストールする場合、チャンネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャンネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャンネルを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャンネルもこの範囲にする必要があります。
- "アドホック" モードで無線 LAN 接続する場合は、チャンネル 10 が使用されます。

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は 2,400MHz～2,483.5MHz です。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯 2,427MHz～2,470.75MHz と重複しています。

【ステッカー】

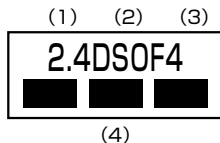
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている次のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【現品表示】

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
- (2) DS : 変調方式が DS-SS 方式であることを示す。
OF : 変調方式が OFDM 方式であることを示す。
- (3) 4 : 想定される与干渉距離が 40m 以下であることを示す。
- (4) ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHz の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【東芝 PC ダイヤル】

受付時間 : 9:00～19:00（年中無休）
ナビダイヤル : 0570-00-3100

4 機器認証表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

(Intel IEEE802.11bg モジュールタイプ)

無線設備名：WM3B2200BG

株式会社 ディーエスピーリサーチ

認証番号：003NY03120 0000,
D03-0064JPB

(Atheros IEEE802.11bg モジュールタイプ)

無線設備名：AR5BMB-43

株式会社 ディーエスピーリサーチ

認証番号：003NY04044 0000

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection / Atheros AR5004G Wireless Network Adapter 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) / Orthogonal Frequency Division Multiplexing (OFDM) 無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B/G)（無線 LAN 標準規格(版数 B/G)）
- Wi-Fi Alliance の定義する Wireless Fidelity (Wi-Fi) 認証

【健康への影響】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection / Atheros AR5004G Wireless Network Adapter 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection / Atheros AR5004G Wireless Network Adapter 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信してお

ります。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【規制に関する情報】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection / Atheros AR5004G Wireless Network Adapter 製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.

To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empêcher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit être utilisé à l'intérieur et devrait être placé loin des fenêtres afin de fournir un écran de blindage maximal. Si le matériel (ou son antenne d'émission) est installé à l'extérieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

België/
Belgique: For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.

Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.

Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.

Deutschland: License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.

France: Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.

Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1- 7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (<http://www.art-telcom.fr>) pour la procédure à suivre.

Italia: License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed


E' necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.

Nederland License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

Europe - Copy of Original Declaration of Conformity (Atheros IEEE802.11b/gタイプ)

Declaration of Conformity	
We, the undersigned,	
Company	TOSHIBA Corp. Personal Computer & Network Company
Address, City	2-9, SUEHIRO-CHO, OME, TOKYO, 198-8710
Country	JAPAN
Phone number	+81 428 34 1445
Fax number	+81 428 30 7432
certify and declare under our sole responsibility that the following equipment:	
Product description	2.4GHz Wireless LAN MiniPCI Module
Manufacturer	ASKEY Computer Corp.
Type	AR5BMB-43
is tested to and conforms with the essential requirements for protection of health and the safety of the user and any other person and Electromagnetic Compatibility, as included in following standards:	
Standard	Issue date
EN 301 489-17	Version 1.2.1
EN 60950	2000
and is tested to and conforms with the essential radio test suites so that it effectively uses the frequency spectrum allocated to terrestrial/space radio communication and orbital resources so to as to avoid harmful interference, as included in following standard:	
Standard	Issue date
EN 300 328-2	Version 1.2.1
and therefore complies with the essential requirements and provisions of the Directive 1999/5/EC of the European Parliament and of the council of March 9, 1999 on Radio equipment and Telecommunications Terminal Equipment and the mutual recognition of their conformity and with the provisions of Annex II (Conformity Assessment procedure referred to in article 10).	
The technical documentation as required by the Conformity Assessment procedure is kept at the following address:	
Company	Toshiba Europe GmbH
Address, City	Hammfelddamm 8, 41460 Neuss
Country	Germany
Phone number	+49 (0)2131-158-425
Fax number	+49 (0)2131-158-582
TCF reference nr.	Toshiba AR5BMB-43
Drawn up in	Ome
Date	9 April 2004
	
Name and position	Mr. Koichi Kaji

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection / Atheros AR5004G Wireless Network Adapter, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection / Atheros AR5004G Wireless Network Adapter is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection / Atheros AR5004G Wireless Network Adapter shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Wireless LAN has been tested with Bluetooth transceiver for colocation requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

● Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement. The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

4 Bluetooth について

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver. 1.2
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	出力 *1	最大+4dBm (Power Class2)
	受信感度 *1	-70dBm
	通信距離	見通し10m *2
電源電圧	3.3V	
消費電流	最大200mA	

* 1 アンテナの効率は含まれません。

* 2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetooth モジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 Bluetooth™ 東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【ステッカー】

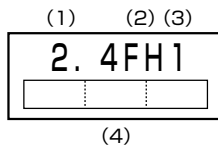
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- (2) FH : 変調方式がFH-SS方式であることを示す。
- (3) 1 : 想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
- (4) : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

【東芝PCダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル / 0570-00-3100

4 機器認証表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：EYXE2CS

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 001NYDA1507

財団法人 電気通信端末機器審査協会 認証番号 D04-0411001

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Bluetooth™ 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するあらゆる Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group 策定の Bluetooth Specification Ver.1.2
- Bluetooth Special Interest Group の定義する Bluetooth ワイヤレステクノロジーの Logo 認証

お願い

- 本製品はすべての Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。
- ご使用にあたっては、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) 本製品は Bluetooth™ Version 1.2 仕様に準拠しております。
Bluetooth™ Version 1.0B 仕様の Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

(3) Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品は他の無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Bluetooth™ 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品を使用する場合
- 他の装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

IC:248H-DPA3232B

Caution

FCC Interference Statement

This device complies with part 15 of the FCC rules.

Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note that any changes or modifications to this equipment not expressly approved by the manufacturer may void the authorization to operate this equipment.

Caution

Exposure to Radio Frequency Radiation

The radiated output power of the Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits.

Nevertheless, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In order to comply with FCC radio-frequency radiation exposure guidelines for an uncontrolled environment, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA has to be operated while maintaining a minimum body to antenna which are located on top of LCD distance of 20 cm.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, it is advised to use the Bluetooth™ Card from TOSHIBA in such a manner that human contact during normal operation is minimized.

(The model with embedded wireless LAN module: PA3362U-1MPC)

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6UPA3362WL, CJ6UPA3232BT.

(The model with embedded wireless LAN module: PA3373U-1MPC)

Relevant transmitters include FCC IDs: CJ6UPA3373L, CJ6UPA3232BT

Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

さくいん

B

Battery LED	87
BIOS セットアップ	107
Bluetooth Manager	59
Bluetooth 機能を使う	56
Bluetooth について	150

C

CD の取り扱い	31
ConfigFree	54

D

Disk LED	14
DVD の取り扱い	31

I

i.LINK (IEEE1394) コネクタ	76
i.LINK (IEEE1394) 対応機器の取り付け	77
i.LINK (IEEE1394) 対応機器の取りはずし	77

L

LAN 機能	38
LAN ケーブルの接続	38
LAN コネクタ	38

P

PC カードスロット	65
PC カードの取り付け	65
PC カードの取りはずし	65

R

RGB コネクタ	74
----------------	----

S

S-Video 出力コネクタ	69
SD Card LED	32
SD カードスロット	33
SD メモリカードのセット	33
SD メモリカードの取り出し	34
S 端子ケーブルの取り付け	69
S 端子ケーブルの取りはずし	73

T

TFT 方式カラー液晶ディスプレイ ...	10
-----------------------	----

U

USB コネクタ	67
USB 対応機器の取り付け	67
USB 対応機器の取りはずし	68

W

WEP 機能	50
Windows のネットワーク設定	40

ア

アプリケーションの削除	103
アプリケーションの追加	102
アンインストール	103

イ

インストール	102
インターネットボタン	35
インタフェース	62

エ

液晶ディスプレイの取り扱い	13
---------------------	----

カ

海外でインターネットに接続する ...	60
外形寸法図	126
外部ディスプレイの接続	74
画素	11

キ

キーフロッピーディスクの作成 ...	113
休止状態	98

ク

くるくる壁紙チェンジャー	13
--------------------	----

サ

サイバーサポートボタン	35
-------------------	----

シ

使用できる CD	23
使用できる CD/DVD と 対応するアプリケーション	20
使用できる DVD	25

ス

スタンバイ	97
スピーカ	15

セ

静電気について	81
---------------	----

ソ

増設メモリスロット	80
増設メモリの取り付け	81
増設メモリの取りはずし	83

テ

ディザリング	11
テレビに表示する	69

ト

東芝 PC 診断ツール	84
東芝省電力	95
時計用バッテリー	89
ドライバをインストールする	63
ドライブ	19

ナ

内蔵モデム	60
内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ	60

ハ

ハードディスクドライブ	14
バックライト用蛍光管	13
バッテリー安全ロック	93
バッテリー駆動で使用できる時間	91
バッテリー充電完了までの時間	90
バッテリー充電量が減少したとき	89
バッテリー充電量の確認	87
バッテリーの充電方法	90
バッテリーの充電保持時間	91
バッテリーパック	86
バッテリーパックの 取り付け／取りはずし	93
バッテリー・リリースラッチ	93
バッテリーを長持ちさせるには	92
パネルスイッチ機能	100

ヒ

ビデオモード	127
表示可能色数	10
表示装置を切り替える	74

フ

フォーマット (DVD-RAM)	28
プラグアンドプレイ	63

ヘ

ヘッドホン出力端子	79
ヘッドホンの接続	79

ホ

ホットインサージョン	62
ボリュームコントロール	15
ボリュームダイヤル	15

マ

マイク入力端子	78
マイクロホンの接続	78

ム

無線 LAN 機能	41
無線 LAN について	141
無線 LAN ネットワーク の基本設定	46

メ

メールボタン	35
メモリ容量の確認	84

ユ

ユーザパスワード	112
ユーザパスワードの削除	115
ユーザパスワードの登録	113
ユーザパスワードを 忘れてしまった場合	115

リ

リリース情報	8
--------------	---

ワ

ワイヤレス コミュニケーションLED	52
ワイヤレス コミュニケーションスイッチ	52

